

(平成20年7月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>7月期の野菜の入荷状況は、葉菜類の一部で高温干ばつの影響による入荷減が見られたが、そのほかは概ね順調な入荷状況であった。また、国産志向の高まりによって玉葱など一部の品目では輸入農産物が入荷が減少したものの、野菜全般の作柄が良好であったことから、全体の入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、土物類の一部を除き、全般に猛暑によって消費が低迷しており、全体としては前年同期を11%下回った。</p> <p>品目別には、キャベツ、ほうれんそう、レタス、玉葱が入荷減の単価安、キュウリ、ナス、トマト、ピーマンが入荷増の単価安となり、長大根は入荷前年並みの単価安、西洋にんじんは入荷増の単価高となった。</p> <p>根菜類は、入荷が前年並みで、価格も前年並みとなった。 葉菜類は、入荷が前年並みで、価格は20%安となった。 果菜類は、入荷は12%増加し、価格は23%安となった。 土物類は、入荷は11%減少し、価格は11%高となった。</p>
果 実	<p>7月期の果実の入荷状況は、一部の品目で6月の曇天の影響を受けながらも、梅雨が明けてからは好天続きによって順調な入荷となり、全体の入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、高温によってハウスみかんやデラウェアで着色不良等の品質低下が見られたものの、アールスメロンは中元、スイカ類は猛暑によって需要が高まり、全体としては前年同期を6%上回った。</p> <p>品目別には、ハウスみかん、デラウェアが入荷増の単価安となり、ふじは入荷減の単価前年並み、アールスメロンは入荷前年並みの単価高、さらに大玉スイカは入荷増の単価高であった。</p> <p>柑橘類は、入荷が20%増加し、価格は14%安となった。 りんご類は、入荷が18%減少し、価格は前年並みとなった。 ぶどう類は、入荷が8%増加し、価格は前年並みとなった。 メロン類は、入荷が15%減少し、価格は12%高となった。 スイカ類は、入荷が5%増加し、価格は38%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長大根</p>	<p>北海道，青森県を中心とする入荷。好天に恵まれて作柄は良かったが，価格低迷による産地での出荷調整によって，全体の入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，猛暑によって消費が低迷し，出荷調整があったものの，前年同期を16%下回った。</p>
<p>西洋人参</p>	<p>北海道，青森県を中心に，兵庫県，長崎県，和歌山県からの入荷。各産地とも雨量が少なく干ばつ傾向であったものの，生育の遅れていた兵庫県からの入荷が集中したことで，入荷量は前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は，前月までの極端な単価高からは急落したものの，前年同期を12%上回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>長野県を中心に，北海道，滋賀県，群馬県からの入荷。主力産地の長野県では準高冷産地の切り上がり及早かったものの，高冷産地からの入荷ピークが重なったことで，京都市場への入荷に影響はなく，入荷量及び価格ともに前年並みとなった。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>長野県，群馬県を中心に，茨城県からの入荷。主力産地である群馬県からの入荷が生育遅れのために減少し，全体としては前年同期を9%下回った。</p> <p>価格は，猛暑による消費の低迷から，前年同期を27%下回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>岐阜県を中心に，茨城県，北海道からの入荷。北海道産が高温による作柄の悪化に加え，現地相場の高騰によって京都市場への入荷が減少し，入荷量は前年同期を7%下回った。</p> <p>価格は，猛暑による消費の低迷から，前年同期を18%下回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野県を中心に，北海道，山梨県からの入荷。高温干ばつの影響から小玉傾向での入荷となり，下旬に入荷が増加したものの，全体の入荷量としては前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は，野菜相場の低迷に加えて，下旬に入荷が増加したことにより，前年同期を32%下回る結果となった。</p>

<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>京都府，福島県，愛媛県を中心とする入荷。6月の曇天の影響によって上旬の入荷は少なかったが，梅雨明けと同時に入荷量は急増し，全体としては前年同期を10%上回った。 価格は，中旬以降に入荷量が急増したことで単価安に拍車がかかり，前年同期を48%下回った。</p>
<p>なす</p>	<p>京都府，徳島県を中心とする入荷。気温の上昇が例年より早かったことで生育は良く，入荷量は前年同期を12%上回った。 価格は，順調な入荷状況によって単価安となり，前年同期を35%下回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>北海道を中心に，岐阜県，京都府からの入荷。台風等の被害もなく好天に恵まれたことで順調な入荷が続いており，入荷量は前年同期を12%上回った。 価格は，入荷増によって単価安となり，前年同期を11%下回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>大分県を中心に，茨城県，宮崎県，兵庫県からの入荷。6月の曇天の影響によって生育が遅れていたが，梅雨が明けた中旬以降に入荷が急増し，全体としては前年同期を13%上回った。 価格は，中旬以降に入荷量が急増したことで単価安となり，前年同期を23%下回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>長崎県を中心に，青森県，千葉県，茨城県からの入荷。青森県，千葉県，茨城県では6月の曇天の影響によって生育が遅れていたものの，長崎県からの入荷が多く，入荷量は前年並みとなった。 価格は，昨年が極端な単価安であったことから，前年同期を34%上回った。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>兵庫県を中心に，佐賀県からの入荷。作柄は良く，大玉傾向の入荷であったが，中国産をはじめとした輸入品の入荷が減少したため，入荷量は前年同期を22%下回った。 価格は，全体の入荷量が減少したものの，国産品は潤沢に入荷していることと，単価の低い大玉中心であったことから，前年同期を9%下回った。</p>
<p>【その他野菜】 生しいたけ</p>	<p>徳島県，和歌山県を中心に，広島県，岡山県からの入荷。上旬は順調な入荷状況であったが，中旬以降は猛暑のために収穫量が減少し，全体としては前年並みとなった。 価格は，入荷が前年並みながら，猛暑による消費低迷によって単価安となり，前年同期を8%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	<p>佐賀県を中心に，和歌山県，長崎県からの入荷。各産地ともに作柄は良く，順調な入荷状況であったため，入荷量は前年同期を16%上回った。</p> <p>価格は，入荷増に加えて，高温の影響から着色が進まず，下位等級の割合が多かったことから，前年同期を12%下回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>青森県からの入荷。7月は産地在庫が少なく，京都市場への入荷量は前年同期を24%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら前年並みとなった。</p>
もも	<p>山梨県を中心に，和歌山県，長野県からの入荷。作柄は良く，降水量が少なかったことで食味も良好，安定した入荷状況により，入荷量，価格ともに前年並みとなった。</p>
デラウェア	<p>山梨県，山形県，大阪府を中心に，京都府，島根県からの入荷。原油高による加温抑制で生育が遅れていたものが7月に集中し，入荷量は前年同期を16%上回った。</p> <p>価格は，入荷が増加したことで単価安となり，前年同期を7%下回った。</p>
巨峰	<p>福岡県を中心に，長野県，山梨県からの入荷。各産地とも，高温による着色不良が見られたものの，入荷量，価格ともに前年並みとなった。</p>
アールス	<p>静岡県，京都府を中心に，高知県，愛知県，宮崎県，熊本県からの入荷。各産地ともに6月の日照不足が影響して小玉傾向であったが，結果的に入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，中元需要によって単価高となり，前年同期を19%上回った。</p>
大玉スイカ	<p>鳥取県，石川県を中心に，山形県，長野県からの入荷。各産地とも天候に恵まれて作柄が良く，大玉傾向であったことから，入荷量は前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は，猛暑によって消費が伸びたことに加え，品質も良好であったことから，入荷増ながら前年同期を41%上回った。</p>